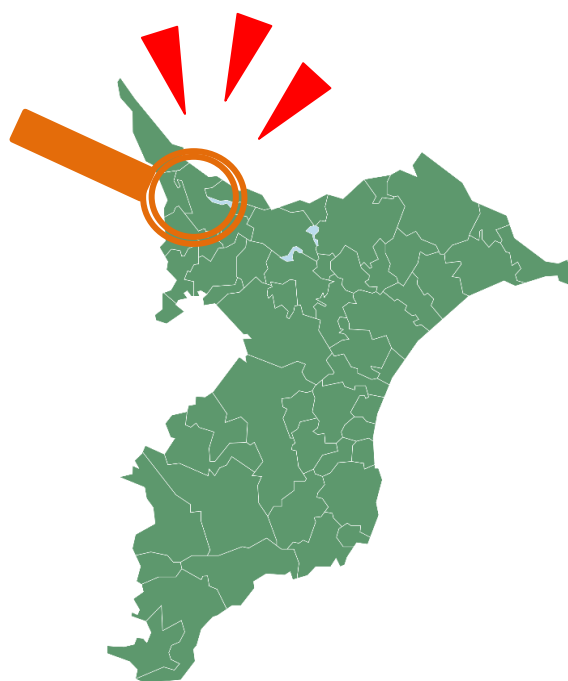


2021・12

柏の景気情報

令和3（2021）年12月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和3年12月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間: 令和3年12月24日～令和4年1月11日 調査対象: 柏市内128事業所及び組合にヒアリング、回答数79

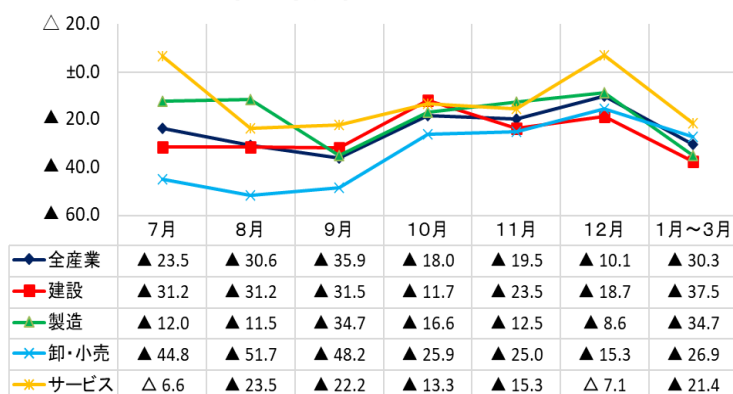
全産業DIは全ての業種で改善。先行きはオミクロン株の感染動向に警戒感強く、全業種で悪化の見通し

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.1(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が9.4ポイント改善した。

12月はすべての業種でDI値が改善。特にプラスの数値まで改善したサービス業からは、学習塾で子育て世帯の臨時特別給付金による冬期講習増加、飲食店で売上が昨年比増であるが宴会、接待需要減とのコメントがあった。また、年末ということで、卸小売業からは歳末セールの開催を喜ぶ声が見られた。

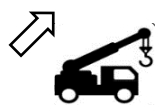
先行きDIは▲30.3(今月比▲14.5)であり、引き続き材料の高騰、不足やオミクロン株の感染急拡大により、警戒感が強い。

柏の景気情報・産業別業況DI



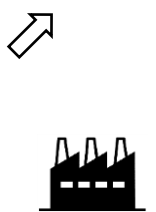
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「受注はあるが製品が入らず顧客に迷惑をかけている」(瓦斯機器、暖房空調工事)、「年度末に向けて受注は多いが、金額は少ない」(土木工事)、「建築資材が全般的に高騰」(一般土木建築工事)、「ここにきてオミクロン株の市中感染が広がり、2022年が規制や、緊急事態宣言が発令される事態にならないことを願う」(塗装工事)、「年内に畳工事をという依頼が多く、景況改善。昨年9月以降、畳材料の値上げが続いている」(畳)、「得意先の受注減が下請けにも影響。今年だけで仕入単価が3回も値上げしている。材料は工期を過ぎて納入され、請求は月をまたぎ、売上にうまくつながらない」(とび)



製造業

「コロナ禍のみならず、半導体不足の影響も受け、業況は悪化の一途」(電子応用装置)、「先月に引き続き売上が回復しているが、オミクロン株が心配」(酒類)、「化粧品、特に口紅容器の受注に変化は見られず苦戦が続く。医療品容器も海外工場の稼働が戻らない」(プラスチック加工)、「海外からの規模の大きい案件が多く、資材購入の為に一時的にキャッシュフローが悪化。資材コストの上昇が製品単価に転嫁しづらく利益を出せない」(機械・同部品)、「原材料高騰、得意先ではサプライチェーンの断絶により部品入手困難となって、当社は受注停滞。半導体不足による受注停滞は、2022年上期も続きそう」(金属素形材製品)、「人員不足とテレワーク解消による感染拡大が心配」(鉄鋼)、「半導体不足に端を発する遅滞が続く」(金属製品)、「コロナの影響による材料、商品等の値上げや遅れはないが、輸入材料の遅れや品薄感の情報が多い。燃料費も高止まりの状況が続けば、物流に影響しそう」(自動車付属品)、「人口減少は働き手の不足、需要減少につながり、地域の活力にも影響する可能性がある。これまで以上に地域をあげた対応が必要な年になるのでは」(印刷)



卸・小売業

「まだまだ厳しい状況。オミクロン株が流行しないことを祈る」(大型小売店)、「昨年比60%。昨年に輪をかけて酷い状態。転職者も増え人員配置に困っている」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「お客様はオミクロン株を心配しつつも、外出着や旅行鞆などが好調。クリスマスはイエナカの傾向のままで、家族向け商材が好調だった」(大型小売店)、「歳末セールが開催できてよかった」(各種商品小売)、「クリスマス予約は低迷したが、当日販売は前年比増」(洋菓子店)、「クリスマスケーキは予約増加」(洋菓子店)、「コロナの広がりにより特にレストランは来店者減少。天候による生育不良で地元商品不足が見込まれる」(各種食料品小売)



サービス業

「昨年より売上増加も、コロナ前に比べると半分程度に減少。宴会や接待など、平日夜の需要減」(日本料理)、「柏市や松戸市の子育て世帯の臨時特別給付金の現金給付が決まり、冬期講習の受講をためらっていた家庭が申込してきた」(学習塾)、「不動産の売り物件が減少。買い需要はあるが、お客様に紹介する物件が減少」(不動産管理)、「昨年は好展開だった。本年を安定稼働に持ち込むためには踏ん張りどころ」(ソフトウェア)、「軽油高騰に伴うコスト増が利益を圧迫。またドライバー不足の解消も見通せない状況にある」(一般貨物自動車運送)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲10.1に対し、「CCI-LOBO」が▲15.8で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：2021年12月13日～17日

調査対象：全国の337商工会議所が2,619企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コスト増の影響
続くも改善。先行きは、変異
株への警戒感から慎重な見方
広がる

12月の全産業合計の業況DIは、▲15.8と、前月から+5.3ポイントの改善。日常生活の回復に伴う外出機会の増加や一部自治体による需要喚起策の効果により客足が増える飲食・宿泊業を中心としたサービス業の回復が続くほか、小売業では衣料品の需要に持ち直しの動きがみられる。一方、製造業を中心に依然として幅広い業種で、部品供給制約による納品遅れ、原油価格を含む資源価格や鉄鋼などの原材料費の上昇などのコスト増加が続いている。加えて、活動正常化に伴う人手不足も発生しており、中小企業の景況感は回復基調が続くものの、力強さを欠いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲18.0（今月比▲2.2ポイント）と悪化を見込む。感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けた国・自治体の支援の拡充に

より、年末年始の商戦を契機とした個人消費拡大や国内の観光需要回復などへの期待感がうかがえる。一方、オミクロン株による感染拡大と活動制約を懸念する声に加え、部品供給制約の長期化や円安、資源価格の高止まり、最低賃金引き上げによる人件費増などのコスト上昇圧力の継続。仕入価格上昇分の価格転嫁の遅れから、先行きの不透明感が高まり、慎重な見方が広がっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「地域の公共工事の受注競争が厳しくなっており、売上は悪化。オミクロン株の発生により外国人技能実習生の入国再開が遅れていることもあり、人材確保が困難になっている」（管工事業）、「住環境を見直す消

費者からリノベーション依頼が多く、売上は増加。ただし、受注を受けても給湯器やトイレなどの品不足により完成遅延が発生している」（一般工事業）

【製造業】「中国向けは減産の影響が続いているものの、国内での自動車製造については半導体不足の影響が緩和されつつあり、一部売上が回復している」（ボルト・ナット製造業）、「原材料の仕入価格の高騰が著しい。油脂は今年度5回目の値上げが予定されている。取引先と価格交渉を行っているが、その分受注量が減少してしまうことを懸念している」（菓子製造業）

【卸売業】「好天により生育が順調で出荷量が増加した葉物野菜の価格が下落しているほか、飲食店向けの受注が伸びており、売上・採算ともに改善した」（農産物卸売業）、「大手自動車メーカーの挽回生産により、受注は回復傾向にあり、売上は改善」（自動車関連卸売業）

【小売業】「活動回復は緩やかで期待していたほどの来客数はないが、クリスマスフェアや食料品売り場のリニューアルにより来店客を確保し、売上は改善」（百貨店）、「行動制限解除による人出の増加や例年より低い気温により冬物衣料の売上が好調。一方、食料品の仕入価格は上昇しているため、収益確保に苦戦している」（総合スーパー）

【サービス業】「県内の観光需要喚起策の効果が大きく、宿泊客が増加し、売上は改善。今後はオミクロン株の感染状況が不安材料ではあるものの、観光需要喚起策の期間延長と対象拡大による一層の客数増加に期待している」（宿泊業）、「テイクアウトやデリバリーによる売上が引き続き好調。店内飲食についても、少人数の団体が中心ではあるが、宴会の予約が入り始めている」（飲食業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲24.1	▲18.2	▲9.7	▲28.3	▲37.6	▲28.9
8月	▲29.4	▲20.9	▲12.5	▲30.7	▲44.4	▲37.9
9月	▲33.2	▲18.7	▲18.1	▲35.0	▲48.0	▲43.8
10月	▲28.9	▲22.1	▲14.7	▲32.1	▲42.2	▲34.8
11月	▲21.1	▲18.2	▲13.7	▲20.8	▲35.2	▲18.9
12月	▲15.8	▲16.3	▲9.3	▲11.6	▲30.0	▲12.5
見通し	▲18.0	▲17.8	▲14.9	▲19.7	▲25.1	▲14.9

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.1	 ▲ 18.7	 ▲ 8.6	 ▲ 15.3	 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 15.8	 ▲ 16.3	 ▲ 9.3	 ▲ 30.0	 ▲ 12.5
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.8	 ▲ 6.2	 ▲ 13.0	 ▲ 15.3	 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 8.2	 ▲ 16.0	 ▲ 0.4	 ▲ 19.0	 ▲ 5.9
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 25.0	 ▲ 30.4	 ▲ 19.2	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.5	 ▲ 20.2	 ▲ 15.6	 ▲ 27.1	 ▲ 20.6
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 64.5	 ▲ 50.0	 ▲ 82.6	 ▲ 69.2	 ▲ 42.8
CCI-LOBO	 ▲ 57.3	 ▲ 73.7	 ▲ 65.0	 ▲ 46.3	 ▲ 48.4
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.4	 31.2	 8.6	 7.6	 28.5
CCI-LOBO	 17.7	 31.7	 11.9	 12.4	 20.6
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.3	 ▲ 18.7	 ▲ 30.4	 ▲ 11.5	 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 14.6	 ▲ 5.4	 ▲ 11.9	 ▲ 23.4	 ▲ 18.6

令和3年（2021年）12月の動向

【業況について】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.1（前月水準▲19.5）となり、マイナス幅が9.4ポイント改善した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業▲7.1(同▲15.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15.3(同▲25.0)、建設業▲18.7(同▲23.5)、製造業▲8.6(同▲12.5)である。

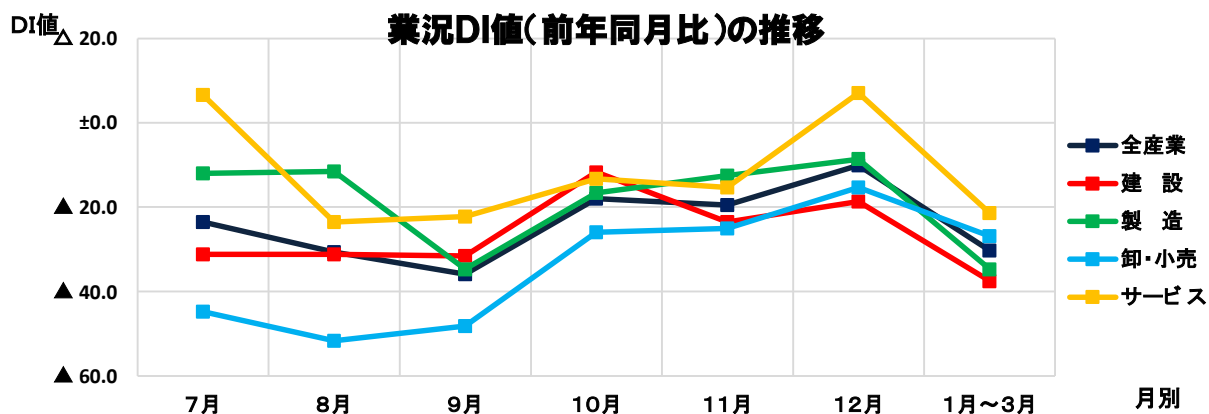
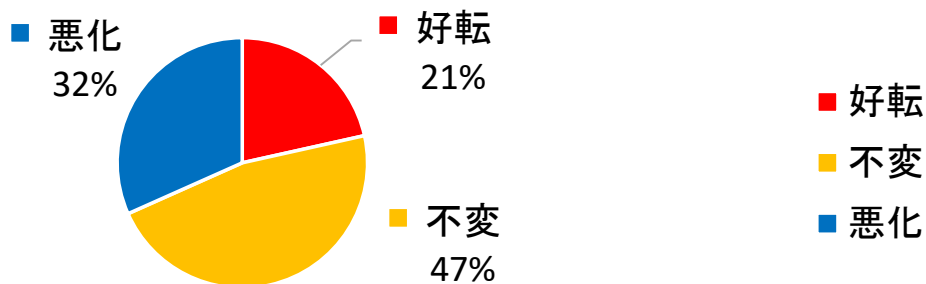
○ 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲30.3（前月水準▲15.8）となり、マイナス幅が14.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲26.9(同▲42.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲37.5(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲34.7(同▲4.1)、サービス業▲21.4(同▲7.6)である。

業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和3年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月（12月～2月）
全産業	▲23.5	▲30.6	▲35.9	▲18.0	▲19.5	▲10.1	▲30.3（▲15.8）
建設	▲31.2	▲31.2	▲31.5	▲11.7	▲23.5	▲18.7	▲37.5（△5.8）
製造	▲12.0	▲11.5	▲34.7	▲16.6	▲12.5	▲8.6	▲34.7（▲4.1）
卸・小売	▲44.8	▲51.7	▲48.2	▲25.9	▲25.0	▲15.3	▲26.9（▲42.8）
サービス	△6.6	▲23.5	▲22.2	▲13.3	▲15.3	△7.1	▲21.4（▲7.6）

前年同月と比べた今月の業況について



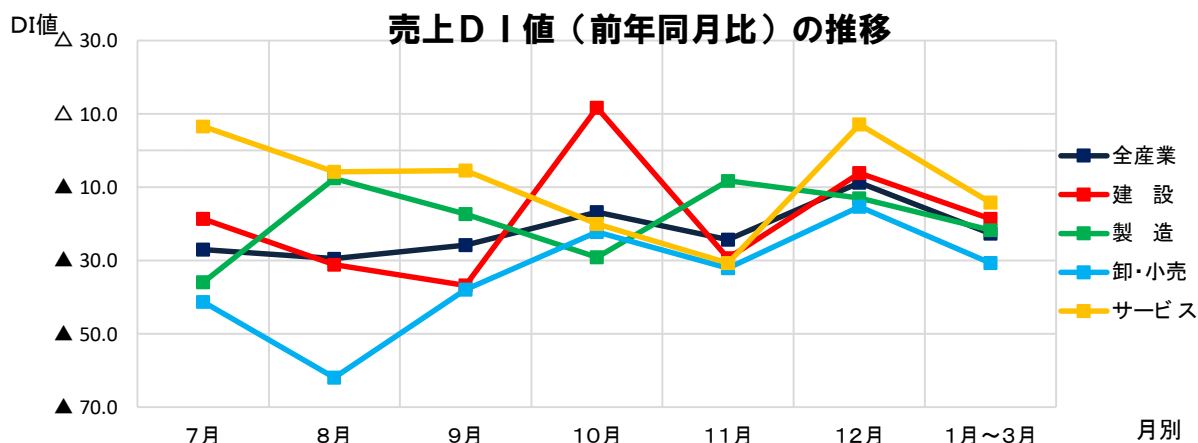
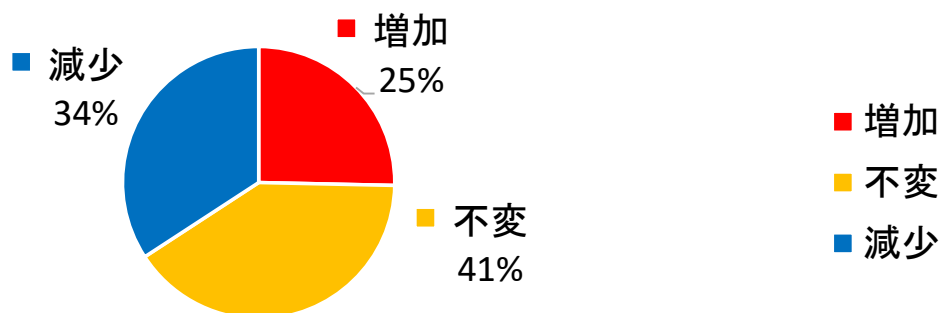
【売上について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.8(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が15.5ポイント縮小した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△7.1(同▲30.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲6.2(同▲29.4)、卸小売業▲15.3(同▲32.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲13.0(同▲8.3)である。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.7(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が11.8ポイント拡大する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲30.7(同▲32.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲21.7(同△4.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同±0.0)、サービス業▲14.2(同▲7.6)である。

売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲27.0	▲29.5	▲25.8	▲16.8	▲24.3	▲8.8	▲22.7(▲10.9)
建設	▲18.7	▲31.2	▲36.8	△11.7	▲29.4	▲6.2	▲18.7(±0.0)
製造	▲36.0	▲7.6	▲17.3	▲29.1	▲8.3	▲13.0	▲21.7(△4.1)
卸・小売	▲41.3	▲62.0	▲37.9	▲22.2	▲32.1	▲15.3	▲30.7(▲32.1)
サービス	△6.6	▲5.8	▲5.5	▲20.0	▲30.7	△7.1	▲14.2(▲7.6)

前年同月と比べた今月の売上について



【採算について】

- 12月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.2(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が6.6ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲19.2(同▲39.2)、サービス業±0.0(同▲15.3)、建設業▲25.0(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲30.4(同▲16.6)である。

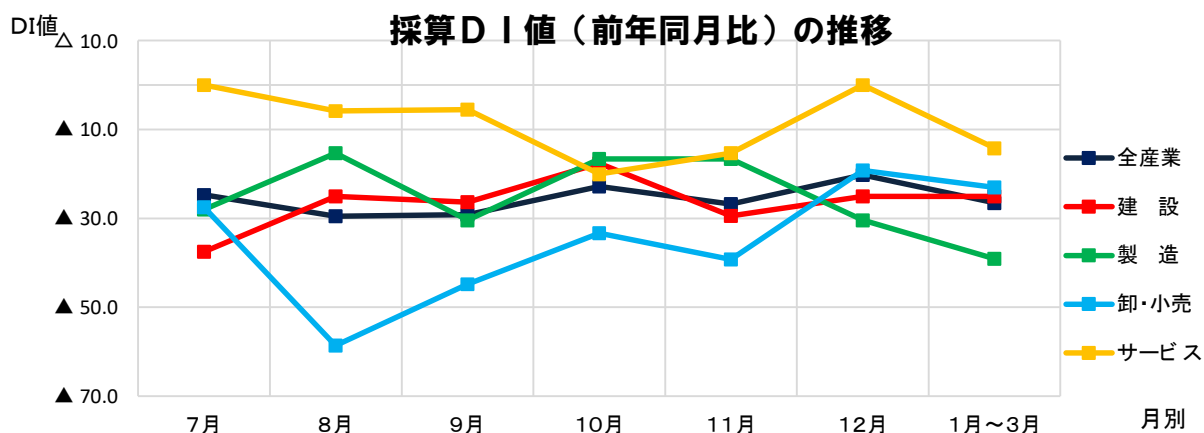
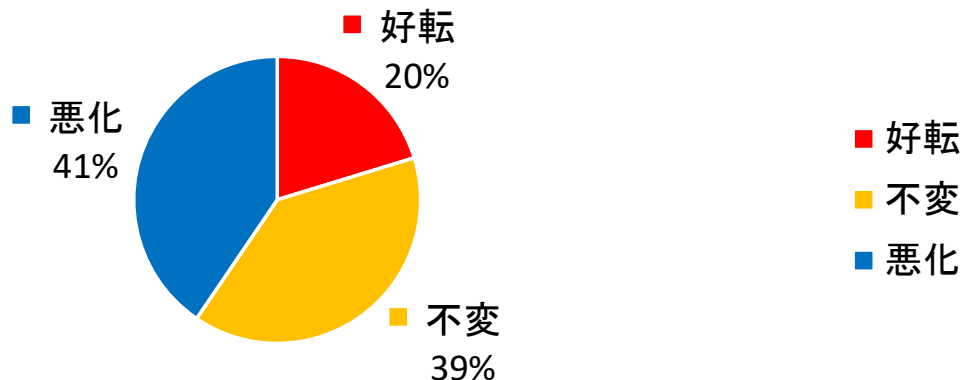
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.5(前月水準▲19.5)であり、マイナス幅が7.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲23.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲39.1(同▲4.1)、建設業▲25.0(同±0.0)、サービス業▲14.2(同▲7.6)である。

採算D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲24.7	▲29.5	▲29.2	▲22.8	▲26.8	▲20.2	▲26.5(▲19.5)
建設	▲37.5	▲25.0	▲26.3	▲17.6	▲29.4	▲25.0	▲25.0(±0.0)
製造	▲28.0	▲15.3	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲30.4	▲39.1(▲4.1)
卸・小売	▲27.5	▲58.6	▲44.8	▲33.3	▲39.2	▲19.2	▲23.0(▲50.0)
サービス	±0.0	▲5.8	▲5.5	▲20.0	▲15.3	±0.0	▲14.2(▲7.6)

前年同月と比べた今月の採算について



【仕入単価について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.5(前月水準▲60.9)となり、マイナス幅が3.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲82.6(同▲91.6)、建設業▲50.0(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲69.2(同▲50.0)、サービス業▲42.8(同▲38.4)である。

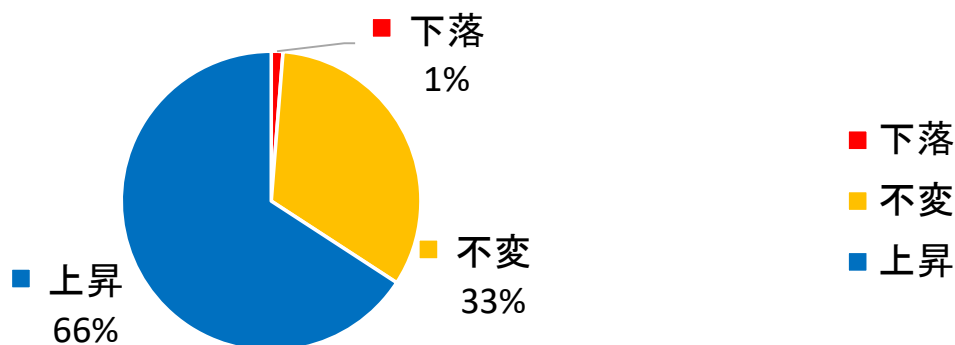
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.1(前月水準▲56.0)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲67.8)、建設業▲50.0(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲15.3)、製造業▲73.9(同▲66.6)である。

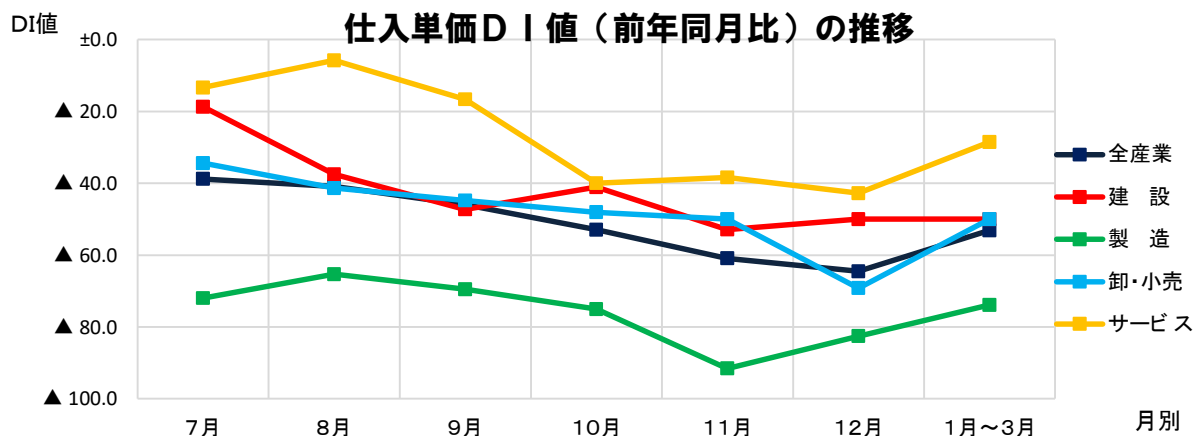
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和3年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲38.8	▲40.9	▲46.0	▲53.0	▲60.9	▲64.5	▲53.1(▲56.0)
建設	▲18.7	▲37.5	▲47.3	▲41.1	▲52.9	▲50.0	▲50.0(▲52.9)
製造	▲72.0	▲65.3	▲69.5	▲75.0	▲91.6	▲82.6	▲73.9(▲66.6)
卸・小売	▲34.4	▲41.3	▲44.8	▲48.1	▲50.0	▲69.2	▲50.0(▲67.8)
サービス	▲13.3	▲5.8	▲16.6	▲40.0	▲38.4	▲42.8	▲28.5(▲15.3)

前年同月と比べた今月の仕入単価について



仕入単価DI値(前年同月比)の推移



【従業員について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△16.4(前月水準△8.5)となり、プラス幅が7.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△31.2(同△17.6)、サービス業△28.5(同△15.3)、製造業△8.6(同△4.1)、卸小売業△7.6(同△3.5)である。

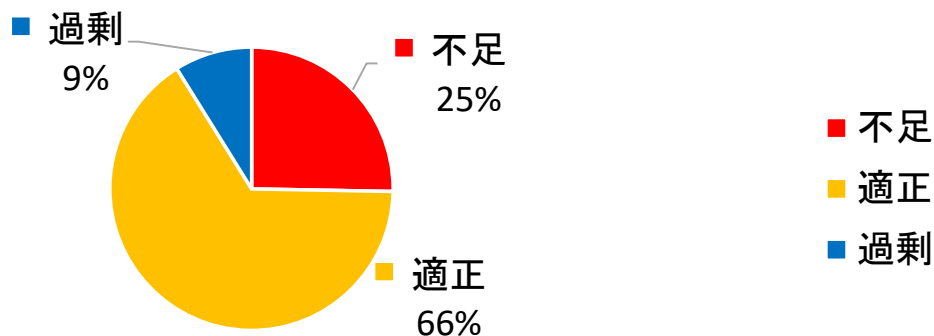
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.2(前月水準△15.8)となり、プラス幅が4.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△11.5(同±0.0)、建設業△37.5(同△29.4)、サービス業△28.5(同△23.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△13.0(同△20.8)である。

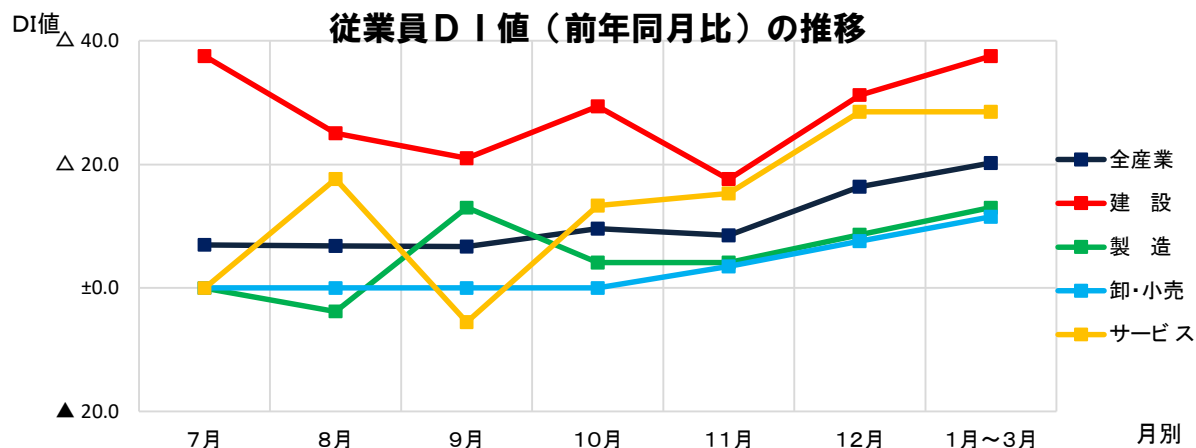
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月(12月～2月)
全産業	△7.0	△6.8	△6.7	△9.6	△8.5	△16.4	△20.2(△15.8)
建設	△37.5	△25.0	△21.0	△29.4	△17.6	△31.2	△37.5(△29.4)
製造	±0.0	▲3.8	△13.0	△4.1	△4.1	△8.6	△13.0(△20.8)
卸・小売	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	△3.5	△7.6	△11.5(±0.0)
サービス	±0.0	△17.6	▲5.5	△13.3	△15.3	△28.5	△28.5(△23.0)

前年同月と比べた今月の従業員について



従業員DI値(前年同月比)の推移



【資金繰りについて】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.3(前月水準▲15.8)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△28.5(同▲7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲11.5(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同±0.0)、製造業▲30.4(同▲16.6)である。

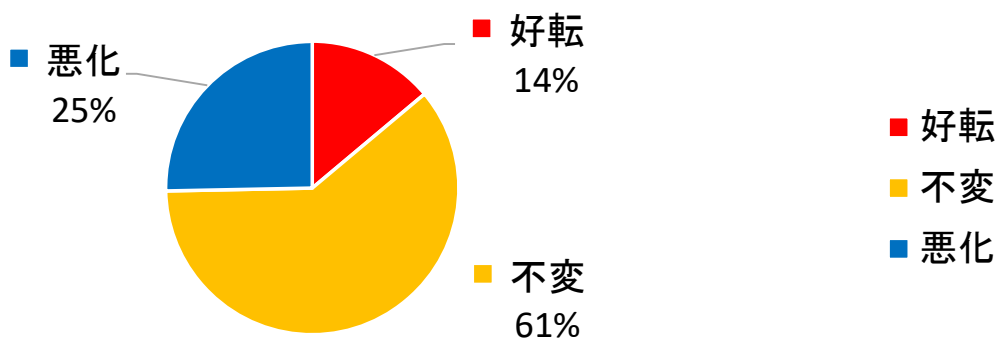
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.5(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が10.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲15.3(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲30.4(同▲8.3)、サービス業▲21.4(同±0.0)、建設業▲18.7(同±0.0)である。

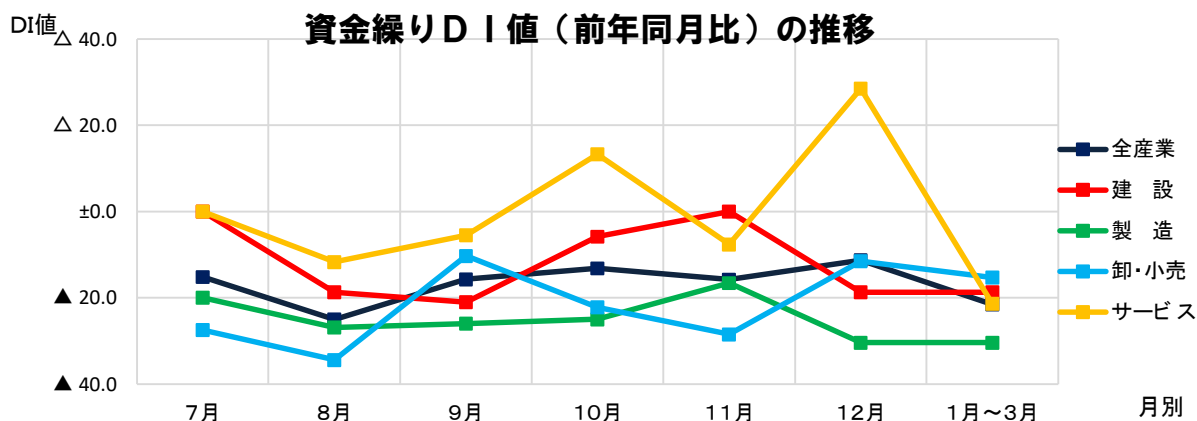
資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲15.2	▲25.0	▲15.7	▲13.2	▲15.8	▲11.3	▲21.5(▲10.9)
建設	±0.0	▲18.7	▲21.0	▲5.8	±0.0	▲18.7	▲18.7(±0.0)
製造	▲20.0	▲26.9	▲26.0	▲25.0	▲16.6	▲30.4	▲30.4(▲8.3)
卸・小売	▲27.5	▲34.4	▲10.3	▲22.2	▲28.5	▲11.5	▲15.3(▲25.0)
サービス	±0.0	▲11.7	▲5.5	△13.3	▲7.6	△28.5	▲21.4(±0.0)

前年同月と比べた今月の資金繰りについて



資金繰りDI値(前年同月比)の推移



調査結果のポイント

《全産業D I は全ての業種で改善。先行きはオミクロン株の動向に警戒感強い》

12月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.1(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が9.4ポイント改善した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△7.1(同▲15.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15.3(同▲25.0)、建設業▲18.7(同▲23.5)、製造業▲8.6(同▲12.5)である。

12月はすべての業種でD I 値が改善。特にプラスの数値まで改善したサービス業からは、学習塾で子育て世帯の臨時特別給付金による冬期講習増加、飲食店で売上が昨年比増であるが宴会、接待需要減とのコメントがあった。また、年末ということで、卸小売業からは歳末セールの開催を喜ぶ声が見られた。

先行きD I は▲30.3(今月比▲14.5)であり、引き続き材料の高騰、不足やオミクロン株の感染急拡大により、警戒感が強い。

【建設業】からは、「受注はあるが製品が入らず顧客に迷惑をかけている」(瓦斯機器、暖房空調工事)、「年度末に向けて受注は多いが、金額は少ない」(土木工事)、「建築資材が全般的に高騰」(一般土木建築工事)、「ここにきてオミクロン株の市中感染が広がり、2022年が規制や、緊急事態宣言が発令される事態にならないことを願う」(塗装工事)、「年内に畳工事をという依頼が多く、景況改善。昨年9月以降、畳材料の値上げが続いている」(畳)、「得意先の受注減が下請けにも影響。今年だけで仕入単価が3回も値上げしている。材料は工期を過ぎて納入され、請求は月をまたぎ、売上にうまくつながらない」(とび)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「コロナ禍のみならず、半導体不足の影響も受け、業況は悪化の一途」(電子応用装置)、「先月に引き続き売上が回復しているが、オミクロン株が心配」(酒類)、「化粧品、特に口紅容器の受注に変化は見られず苦戦が続く。医療品容器も海外工場の稼働が戻らない」(プラスチック加工)、「海外からの規模の大きい案件が多く、資材購入の為に一時的にキャッシュフローが悪化。資材コストの上昇が製品単価に転嫁しづらく利益を出せない」(機械・同部品)、「原材料高騰、得意先ではサプライチェーンの断絶により部品入手困難となって、当社は受注停滞。半導体不足による受注停滞は、2022年上期も続きそう」(金属素形材製品)、「人員不足とテレワーク解消による感染拡大が心配」(鉄鋼)、「半導体不足に端を発する遅滞が続く」(金属製品)、「コロナの影響による材料、商品等の値上げや遅れはないが、輸入材料の遅れや品薄感の情報が多い。燃料費も高止まりの状況が続けば、物流に影響しそう」(自動車付属品)、「人口減少は働き手の不足、需要減少につながり、地域の活力にも影響する可能性がある。これまで以上に地域をあげた対応が必要な年になるのでは」(印刷)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「まだまだ厳しい状況。オミクロン株が流行しないことを祈る」(大型小売店)、「昨年比60%。昨年に輪をかけて酷い状態。転職者も増え人員配置に困っている」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「お客様はオミクロン株を心配しつつも、外出着や旅行鞆などが好調。クリスマスはイエナカの傾向のままで、家族向け商材が好調だった」(大型小売店)、「歳末セールが開催できてよかった」(各種商品小売)、「クリスマス予約は低迷したが、当日販売は前年比増」(洋菓子店)、「クリスマスケーキは予約増加」(洋菓子店)、「コロナの広がりにより特にレストランは来店者減少。天候による生育不良で地元商品不足が見込まれる」(各種食料品小売)とのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「昨年より売上増加も、コロナ前に比べると半分程度に減少。宴会や接待など、平日夜の需要減」(日本料理)、「柏市や松戸市の子育て世帯の臨時特別給付金の現金給付が決まり、冬期講習の受講をためらっていた家庭が申し込んできた」(学習塾)、「不動産の売り物件が減少。買い需要はあるが、お客様に紹介する物件が減少」(不動産管理)、「昨年は好展開だった。本年を安定稼働に持ち込むためには踏ん張りどころ」(ソフトウェア)、「軽油高騰に伴うコスト増が利益を圧迫。またドライバー不足の解消も見通せない状況にある」(一般貨物自動車運送)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲23.5	▲31.2	▲12.0	▲44.8	△6.6
8月	▲30.6	▲31.2	▲11.5	▲51.7	▲23.5
9月	▲35.9	▲31.5	▲34.7	▲48.2	▲22.2
10月	▲18.0	▲11.7	▲16.6	▲25.9	▲13.3
11月	▲19.5	▲23.5	▲12.5	▲25.0	▲15.3
12月	▲10.1	▲18.7	▲8.6	▲15.3	△7.1
見通し	▲30.3	▲37.5	▲34.7	▲26.9	▲21.4

通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し

【産業別】 今月及び先行きのD I 値

	売上高（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.8	▲ 22.7	▲ 20.2	▲ 26.5	▲ 64.5	▲ 53.1	△ 16.4	△ 20.2
建 設	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	△ 31.2	△ 37.5
製 造	▲ 13.0	▲ 21.7	▲ 30.4	▲ 39.1	▲ 82.6	▲ 73.9	△ 8.6	△ 13.0
卸・小売	▲ 15.3	▲ 30.7	▲ 19.2	▲ 23.0	▲ 69.2	▲ 50.0	△ 7.6	△ 11.5
サービス	△ 7.1	▲ 14.2	± 0.0	▲ 14.2	▲ 42.8	▲ 28.5	△ 28.5	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.1	▲ 30.3	▲ 11.3	▲ 21.5
建 設	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 18.7	▲ 18.7
製 造	▲ 8.6	▲ 34.7	▲ 30.4	▲ 30.4
卸・小売	▲ 15.3	▲ 26.9	▲ 11.5	▲ 15.3
サービス	△ 7.1	▲ 21.4	△ 28.5	▲ 21.4

CCI - LOBOとの比較

【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

【業況DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲10.1に対し、「CCI-LOBO」が▲15.8で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。

【売上DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲8.8に対し、「CCI-LOBO」が▲8.2で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【採算DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲20.2に対し、「CCI-LOBO」が▲19.5で柏の方がマイナス幅が0.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【仕入単価DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲64.5に対し、「CCI-LOBO」が▲57.3で柏の方がマイナス幅が7.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。

【従業員DI】

全産業合計では、「柏の景気」が△16.4に対し、「CCI-LOBO」が△17.7で柏の方がプラス幅が1.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方がよい業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。

【資金繰りDI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.3に対し、「CCI-LOBO」が▲14.6で柏の方がマイナス幅が3.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	受注はあるが製品が入らず顧客に迷惑をかけている。	製品納入遅れ	瓦斯機器、暖房空調工事業
	年度末に向けて発注は多いが金額は少ない。	年度末発注	土木工事業
	建築資材が全般的に高騰している。	建築資材高騰	一般土木建築工事業
	ここにきてオミクロン株の市中感染が広がってきており、2022年も規制や、緊急事態宣言が発令される事態にならないことを願います。もはやコロナは無くならないので、治療薬ができればインフルエンザと同じ流行病として以前の生活が戻ることを願います。	オミクロン株	塗装工事業
	年内に畳工事をという依頼がやはり多いので景況は改善。ただ昨年の9月以降畳材料の値上げが続いているので、今年はもう少し落ち着いてもらえると助かります。	年末の畳需要 畳材料の値上げ	畳工事請負・畳製造販売業
	得意先の受注が減っているので 末端の下請けにも大きく影響している。2021年だけでも仕入単価が3回も値上がりの連絡があった。その上仕入れ材料が工期を過ぎて納入され、請求は月をまたぎ、売上にうまくつながらない。	得意先受注減少 仕入単価上昇 材料の納入遅れ	とび
製造業	コロナ禍のみならず、半導体不足の影響も受け、業況は悪化の一途を辿っている。	コロナの影響 半導体不足	電子応用装置製造業
	先月に引き続き今月も売り上げは回復してきている。但し、オミクロン株の状況が非常に心配である。	売上回復 オミクロン株	酒類製造業
	新型コロナの影響で低迷してる化粧品特に口紅容器の受注に変化は見られず苦戦が続く。医療品容器も海外工場の稼働が戻らず大幅な受注増加は期待できない。	化粧品容器の受注苦戦	プラスチック加工
	海外からの規模の大きい案件が多く、資材購入の為に一時的にキャッシュフローが悪化している状況。資材コストの上昇が製品単価に転嫁しづらいので利益を出しづらくなってきている。	キャッシュフロー悪化 コスト上昇分の利益減	機械・同部品製造業
	原材料高騰、サプライチェーンの断絶による得意先の部品入手困難により受注が停滞。半導体不足による受注の停滞は、2022年上期も影響が続きそう。	半導体不足で受注停滞	金属素形材製品製造業
	以前に比べればワクチン接種等で経済活動に影響をあまり与えないので好転になると考えられるが、人員不足を心配している。テレワークは解消しつつあり、逆に感染拡大が心配である。	人員不足 感染拡大の心配	鉄鋼業
	経済の現況は発展ではなく進化が問われる。存続のためにスリムな感覚で団結、知恵を出し合っていく思いである。	進化が必要	印刷業
	半導体不足に端を発する遅滞がまだ続いている。	半導体不足で受注停滞	金属製品
	今の所コロナの影響で、仕入れ材料、商品等の値上げや遅れはないが、輸入材料の遅れや品薄感が情報として多く入ってくるようになった。今後、コロナの新変異株の状況次第で売り上げに影響が出てくることが懸念される。燃料費も高止まり状況が続けば、物流にも影響が出そう。	燃料費の高止まりによる 物流への影響	自動車付属品製造業
	人口減少は働き手の不足、需要減少につながる。地域の活力にも影響する可能性がある。印刷業において、ますます厳しい経営になる。これまで以上に地域をあげた対応が必要な年になるのではないだろうか。	人口減少の影響	印刷業
	まだまだ小売業界は厳しい状況です。オミクロン株が流行しないことを祈ります。	オミクロン株	大型小売店
	昨年比60%で、昨年に輪をかけて酷い状態。転職者も増え人員配置に困っている。オミクロン株の出現で今まで以上に客足遠のく。	売上60%減 転職者増加	時計・眼鏡・光学機械小売業

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	オミクロン株が懸念されているが、お客様の外へ向けた意識は上がっていて、外出着や旅行鞆など好調に動いている。クリスマスはイエナカの傾向は変わらず、家族向けの商材が好調だった。	外出着、旅行鞆好調 イエナカ傾向	大型小売店
	歳末セール、キャンペーンが開催できてよかった。多少なりとも戻りつつあったが、今はまた自粛傾向にらないよう祈るだけ。	歳末セールの開催	各種商品小売業
	クリスマスの予約は低迷したがクリスマス当日売りは前年比増でした。	クリスマス当日売り前年比増	洋菓子店
	クリスマスケーキの予約が増加しました。	クリスマスケーキ予約増	洋菓子店
	コロナの広がりにより特にレストランの来店者減少と天候による生育不良で地元商品不足が見込まれる。	レストラン来店客減少 生育不良による商品不足	各種食料品小売業
サービス業	柏市や松戸市で子育て世帯の臨時特別給付金が現金で10万円支給されることが決まり、11月の段階では冬期講習の受講をためらっていた家庭のほとんどが、申込をしてきた。この業界には少なからず影響があったように思う。クーポンなどの煩わしい手続きが不要となって本当に良かった。	子育て世帯の臨時特別給付金	学習塾
	昨年より売上増加も、コロナ前と比較すると半分程度に減少。30名以上の宴会がなくなり、接待も減少するなど、平日夜の需要減少が大きな要因。また、席の間隔を空けるなどしているため、満席時の来店人数が半減していることも売上減少の要因。	売上昨年比増 平日夜の需要減	日本料理
	収益物件の老朽化に伴う修繕費が高んだが、なんとか積立金で賄うことができた。	収益物件の老朽化	不動産賃貸・管理業
	不動産の売り物件が減少。買い需要はありますが、お客様に紹介する物件が減少。コロナの影響で対面する機会が減っている。早く以前のように入の行き来ができるようになってほしい。	売り物件減少	不動産管理業
	昨年は好展開だった。今年を安定稼働に持ち込むには踏ん張りどころ。	昨年度好調	ソフトウェア業
	軽油高騰に伴うコスト増が利益を圧迫している。またドライバー不足の解消も見通せない状況にある。	軽油高騰が利益圧迫 ドライバー不足	一般貨物自動車運送業

調査要領

調査期間

令和3年12月24日 ～ 令和4年1月11日

調査対象

柏市内128事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	128	79	61.7%
建設	31	16	51.6%
製造	34	23	67.6%
卸・小売	38	26	68.4%
サービス	25	14	56.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合） - （減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 